

JR倉敷駅南の商店街を大型写真で彩る全国公募展「倉敷フォトミュラル」が、開催20年目の今秋限りで幕を閉じる。商店街をギャラリーに見立てたユニークな手法で、にぎ

わいづくりに貢献。市文化振興財団や県立大(総社市窪木)などでつくる実行委が、フィナーレ(10月25日～11月13日)を飾る作品を募集している。8月18日まで。(小野祐香)

倉敷 有終の美 すてきな写真で 飾って

今年「華」と「ねこ」の2部門で募集。「ねこ」は、インテで足を運ぶ人も多
この2部門で募集。ターネットの応募フォーク、商店街のにぎわい
写真評論家の飯沢耕太ームから1人5枚までを大いに支えてくれ
郎さん「東京」が応募(計15枚以下)応募「た」と成果を評価。「秋
作品から選んだ計55点できる。いずれも単写の風物詩として定着し
を、2種類の大布(縦真のみ受け付ける。ていただけに、終わっ
2枚、横1・9枚と縦フォトミュラルは、てしまふのはさみし
2・9枚、横3・7枚)商店街振興などを狙い「い」と語る。
にプリントし、約50に2004年にスター最終回に合わせ、過
0区間につり下げト。県立大デザイン学去の秀作を抜粋した図

最後のテーマ「華」「ねこ」

来月18日まで募集

る。天満屋倉敷店(倉部の学生有志らでつく録の制作も計画してい
敷市阿知)でも、選出するチーム「SAKURる。同大大学院デザイ
作品とは別に「ねこ」A Project」ン学研究科2年小河原
から約10点をピックアップが中心となって企画・佳織さん(24)は「有終
ップし展示する。運営を手がけ、新型コロナの美を飾れるよう、独
「華」は六つ切り、自の感性で捉えた写真
A4サイズで、市文化になった20年を除き毎秋を数多く寄せてほし
振興財団「倉敷フォト開催してきた。い」と話している。
ミュラル」係(〒71倉敷商店街振興連盟 問い合わせは市文化
0-0046、倉敷市の野嶋雅弘会長(70)は 振興財団(086-4
中央1の18の1)に郵「フォトミュラル担当 34-0505)。



昨年の倉敷フォトミュラルは2022年10月

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。